



令和7年度 N0. 24

ホームページ <http://www.ise-mie.ed.jp/~higasioizu-e/>

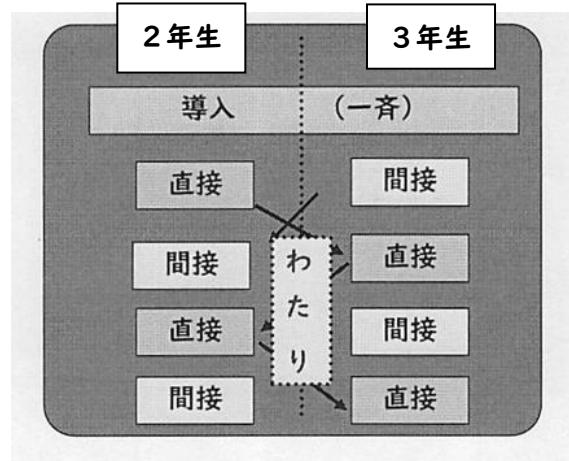
令和7年11月14日 編集・発行 東大淀小学校 松本 栄

## 子どもの学び・教師の学び

### ～複式学級指導の研修より～

保護者の方には、4月よりお知らせさせていただきましたが、来年度の2・3年生か、3・4年生は、複式学級になる可能性があります。そのために、春から職員で研修を深めてきました。

複式学級の指導の中で、一番難しいのは、「わたり」の指導です。教師は一人だけで、2つの学年を順に渡って指導するので、「わたり」と言います。教師が直接指導していない学年は、子ども達だけで学習することになります。(右の図のような形です)



「わたり」の授業イメージ

この「わたり」の中で、教師がどう動いていけばいいのか、教師がいない時に子どもたちの力だけでどう学習を進めさせるのか、研修を深めました。

夏休みは、まず教師が子ども役になって模擬授業を行い、「わたり」の授業をやってみました。実際に、模擬授業をやってみることで、わかってくることがたくさんありました。

そして、2学期に入り、いよいよ実際に、子どもたちを交えながら、「わたり」の授業をスタートしました。来年度、複式学級の可能性が高いのは、今年度の1～3年生の子たちなので、その子どもたちを中心に、「わたり」の授業を進めます。

最初は、子どもたちは大変戸惑っていました。教師も戸惑っていたと思います。今まででは、教師が子どもたちに指示をして、子どもたちが学習をする・・・このスタイルを当たり前のようにやっていたので無理はありません。「先生がいない間は自分達の力で学習をするんですよ」と言われても、子どもたちが困ってしまうのは当然です。

しかし、子どもたちも、先生たちも、あきらめることなく、「わたり」の授業を積み重ねました。子どもたちだけで学習する時間をどうやって充実させるか、ここが一番のポイントになりました。

そこで、子どもたちの中でリーダーを決め、その子どもが中心となって、学習を進める形を大切にしました。「今日の授業の目当てです。みんなでいっしょに読みましょう。」「今から、この問題を一人でやってみましょう。時間は10分です。」「では、考えたことを発表しましょう。」・・・最初は、言葉数が少なかった子どもたちも、しだいにやり方を覚え、「先生、今度は私がみんなのリーダーをやらせてほしい」となってきた程度です。

9月、10月の1・2年生の研究授業、2・3年生の研究授業を経て、子どもたちの中にも、先生達の中に

も、複式学級指導への意欲が大きくなっています。これからも、研修を積み重ね、来年度に備えたいと思います。